



ながた・みさこ 一部在住。最近バイオリンを始め、楽器演奏の楽しさに気づく。牛水にてカフェのスタッフとして勤める傍ら、イベントなどのMCとしても活動中

劇団かたつむり
代表 演出家・俳優

永田美佐子さん

1977(昭和52)年3月、演劇に情熱を燃やす数人の若者たちを中心に、劇団かたつむりは創設されました。ことで創立40周年を迎える、劇団かたつむりの代表・演出・俳優を務めているのが、永田美佐子さんです。

「中学1年生の時、文化祭で初めて演じてから、舞台の魅力に心を奪われました。」と話す永田さん。卒業後は荒尾高校演劇部で演劇演劇の毎日を送りました。

就職を機に演劇から離れたましたが、何気なく見たかたつむりの舞台が再び演劇の道へと導きます。「役者さんの熱演に衝撃を受け、この劇団に絶対に入ると決めましたね」

劇団の中心的メンバーとして活動を続け、2006(平成18)年には代表に就任。翌年、永田さんを突然の病魔が襲います。「年1回の定期公演は絶対に続けたかったので、他の団員に舞台制作を任せることにしました」

しかし、舞台製作は暗礁に乗り上げます。「団員数が少な

く、劇団を続けていく意味を見失っていた時期でした。舞台制作について教育ができていない段階でバトンを渡してしまった私の責任も大きい。劇団存続の危機でしたね」

治療を終えた永田さんはすぐに復帰。団員たちと議論の末、ステージ上に観客席を作り、間近で見てもらうという斬新な手法を取り入れた舞台を無料で行いました。「決意表明として生まれ変わった劇団をみてもらいたかったんです」

現在は11月の40周年記念公演にむけて準備を進めています。「劇団内の風通しが良く、みんな率直に気持ちや伝えあっています。以前は『永田さん』と呼ばれていたのが、今では『美佐さん』ですから」と笑顔を見せる永田さん。「私たちは愛・友情・家族といった人が生きていく上で大切なものをテーマにしています。これからも地元根差して活動しながら、子どもたちが豊かな感受性を育む手助けをしていきたいですね」と目を輝かせながら永田さんは話します。



1_平成27年度の定期公演『シロチドリ物語』。シロチドリの親子の愛を描いた作品です 2_中央公民館での練習風景。真剣に練習するのはもちろんですが、団員同士の繋がりが大切になっています 3_平成26年度の定期公演『金魚とこいのうた』。無償の愛をテーマにした作品です

